

# 森の環境レスキュー隊Ⅲ

## ■ 事業のねらい

森林での自然体験活動をとおして、身近な環境問題に対する関心を高めるとともに、環境保全に配慮した生活の大切さについて理解を深める。



- 実施日 平成24年2月4日(土)～5日(日) 1泊2日
- 参加対象 小学生～中学生 20名
- 参加実績 参加者：28名  
 小1＝2名、小2＝3名、小3＝15名、小4＝4名、  
 小5＝2名、小6＝1名、中1＝1名  
 男子＝7名、女子＝21名  
 運営協力者：大学生2名、専門学校生1名、高校生4名
- 備考 活動場所：足寄町（九州大学北海道演習林）  
 共催：九州大学北海道演習林・足寄町教育委員会  
 協力：株式会社タイセツ（北海道家庭教育サポート企業）

## 1 事業実施の背景



環境教育では、単なる知識の習得だけではなく、一人ひとりが自ら体験し、感じ、分かるというプロセスを踏むことにより、知識や理解を行動に結びつけることができるため、自然や暮らしの中での体験を重視することが大切である。特に、子どもにとっては、原体験とも言える地域の気候風土や自然環境の中での“驚き”や“感動”などの「五感で感じる素晴らしさ」が、生涯にわたり環境に対する価値観の形成に大きく影響すると考えられる。

本事業では林業体験や自然体験活動などから、森林の環境保全の必要性や間伐材の有効活用について学び・考えることをとおして、自然環境への意識を高め、身近なところから環境保全に配慮した生活の大切さについて理解を深めるために実施するものである。

## 2 プログラムデザイン

2/4 (土)	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	受付 10:00～ 10:30	受付	オリエンテーション	朝食	間伐、地引集材 木登り (九州大学北海道演習林内) 荒天の場合 スノーシューハイク (ネイパルあしよる)			休入 け	夕 食	ふりかえり	間伐材利用①	就寝 準備	就寝

2/5 (日)	6	7	8	9	10	11	12	13
	起床	洗面・清掃	朝食	活動準備	間伐材利用② 薪割り 間伐材利用③ 火起こし 間伐材利用④ 棒巻きパン作り (昼食)	ふりかえり	閉会式	13:00 解散

## ■ アクティビティについて



### ■ 意図

- 足寄の厳しい自然環境の中で、間伐体験や地引集材を行うことをとおして、自然環境と自分たちの生活のかかわりや職業としての林業について知る。
- 間伐材の利用をとおして、森林と自分たちの生活が密接にかかわりあっていることに気付き、自然の大切さや資源の再利用について自分なりの考えや意識を持つ。

### ■ 留意事項

- 間伐地点・木登り体験地点は歩行上危険箇所もあり、また寒さの問題もあるため、事前の実地踏査を含め、九州大学の職員と綿密な行動計画を策定した。
- 事業趣旨を達成するため、事業の始めに九州大学職員による説明を行い、その後に間伐体験、最後は間伐材を有効利用した箸づくりや燃料としての薪の活用と、アクティビティの流れを重視することで、参加者の活動意欲と意識を持続させた。

### 3 活動の様子



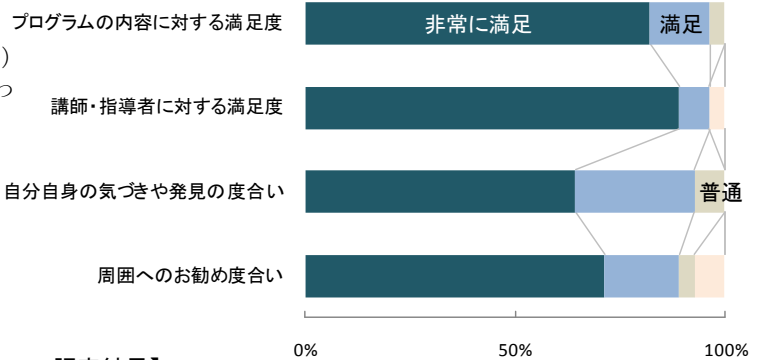
#### ■ 当日の様子

初日はまず始めに、九州大学北海道演習林 久米 篤 林長による、「森のお話」として冬場に行く間伐作業の意義、森林環境作りなどをわかりやすく学んだ。その後九州大学職員の指導のもと、演習林内で間伐する木をのこぎりで切ったり、切り分けた丸太にロープをかけて引っ張る地引集材などの林業体験や、カシワの大木にロープを渡したブランコや木登りなどで冬の森林に親しみ、林業の仕事の意義と大変さ、冬の森の楽しみ方を体験した。そして夜は間伐材の再利用法として、北海道家庭教育サポート企業である株式会社タイセツ（八重樫 明 氏）によるペレット作りの説明や、My箸作りなども行われ、参加者は間伐材の有効活用について学んだ。

2日目は、真冬のクッキングとして棒巻きパンとフライパンピザ作りに挑戦した。今回使用した薪燃料や棒巻きパンの芯棒なども間伐材の再利用であり、ここでも有効活用されていることを学んだ。その後、温かい火の前で棒巻きパンを焼きながら子どもたちは「ナタを使うのが怖かったけど、慣れると簡単に木が割れた。」「新しい友達がいっぱいできて、森の役割をいろいろ学ぶことができたので楽しかった。」など、2日間の感想を口にしていた。

#### ■ 参加者の声

- 自分の力で箸を作ることができて嬉しかった。(小2女子)
- 木登りで、ロープを使って吊上げられたのがちょっとこわかったけど、スリルがあって楽しかった。(小3女子)
- 箸を作ったり、薪を割ったり難しかったけど楽しかった。昔の人は大変だったのだとわかった。(小4男子)
- 棒巻きパンやピザの匂いや食感がよかった。(小5女子)



### 4 事業評価



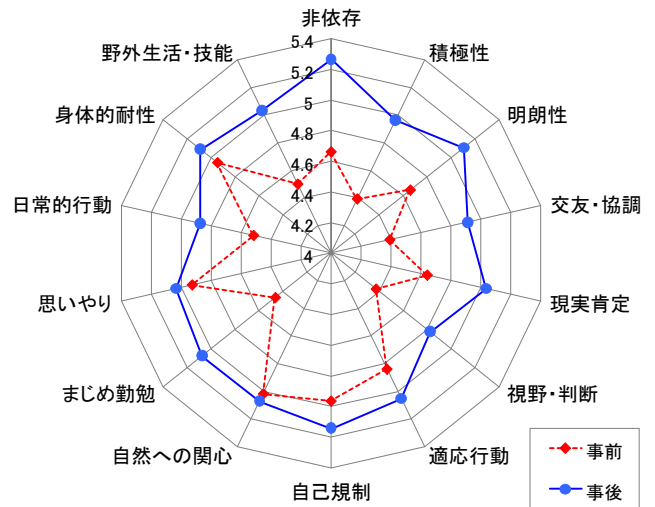
#### ■ 参加者の変容【I K R調査結果】

「まじめ勤勉」については0.7ポイント、「非依存」「積極性」は0.6ポイント、「交友・協調」「野外生活・技能」についても、0.5ポイントの上昇が見られた。

#### ■ 結果の分析・考察

厳しい寒さの中での野外体験活動が多く、のこぎりを使った間伐・丸太に縄をかけて引っ張る地引集材・ナタを使った薪割り・火起こし等、仲間と協力しながら自分の役割を果たす取組が多かったため、「まじめ勤勉」「非依存」「積極性」「交友・協調」「野外生活・技能」などの分野で期待どおりの変容が見られた。

それぞれのアクティビティの体験をとおして、自分自身で感じたことや学んだことが、ポイントの上昇に繋がったと考える。



### 5 まとめ



#### ■ 成果

- 九州大学と少年自然の家、サポート企業の連携・協力により、プログラム全体に森林を育てる、管理する、資源を有効活用するという、一連の流れをつくることができた。
- プログラムの流れを重視したことにより、参加者の事業趣旨の理解が深まり、意欲も最後まで持続した。

#### ■ 課題・今後の方向性

- 今後も九州大学や足寄町教育委員会との連携・協力を継続しつつ、道立の施設や各学校、自治体やサポート企業などといった広域での連携・協力も視野に入れながら事業を実施していくことが考えられる。
- プログラムの内容によっては、2日目の終了時刻をもう少し後に延ばして、ゆとりある組み方にすることも考えられるため、柔軟な編成を行うことも必要である。